

水産政策審議会第63回企画部会への意見提出について

特別委員 遠藤 喜志雄

沿岸漁業

魚種・漁法の格差大

魚種よっての相場の違い・・・平目、あいなめ、真ガレイ等
 漁法よっての相場の違い・・・つり、定置網、刺し網等

外箱に明記されても良い

水揚げ港 水揚げ日 漁法
 徹底されていない

最近の取引方法の変化

生産者・・・末端業者・消費者 ネット

<メリット>

鮮度が良い

少量ずつ購入可能

安い。コストが明確

温度管理されている

<デメリット>

クレームの対応不可能

代金の未回収

多くの中から選べない

受注が増えると対応できない

沖合漁業

漁業所得の安定

漁獲量の不安定から、船底にて、チルド庫に併設し冷凍処理施設・冷凍庫を完備させ、生鮮魚が必要以上にならない様にする
 水揚げ額の設定必要
 行政が水揚げ金額に着目し、最低額を超えないものに補助金等を出すべき

漁協が漁獲量の枠を管理

根こそぎ獲る漁業は止めるべき

遠洋漁業

冷凍の活メ脱血かつおの様に、高品質の商品を増産し専門店
に向けて販売すべき

養殖

安全で安心な魚を作ること、最も重要

環境はもちろん、許認可されている餌を使用
人が口にするものであるから！
いつ処理したものか？（丸魚・活魚に多く見られる）
外箱明記必要

産業の技術向上

様々な魚種の養殖に取り組み、消費マーケットは、
日本から世界中へ。世界で通用するレベルの向上

低コスト化

魚粉を少なくしてコストを落とすと記してあるが、一概に言え
ない。生産地域別で魚粉割合が異なる
魚粉と言っても7種類ほどがある。
天産品との価格差が問題。調整必要か？
天然と言ってもすべて安全なのか？
大規模集約は、必要であるが、適正な収入っていくら？

※これらの事に行政がもっと入り込み、透明度を上げ、魚食のレベルを上げ販路拡大

栽培漁業

養殖と同じく必要

さげますに代表されるが、放流事業をもっとPRすべき
魚種を増やす研究費用をもっと取るべき
外箱にも放流ものを記して良いのでは。決して悪いものではない。
これだけ、天然物が不安定。時代は変化している。

漁協や行政が管理すべき

親水性レクリエーション

漁業は変わる、作る・育てる・蓄える。

国の政策として行うべき。もっと入り込むこと
日本は魚食文化の最先端を行きべき

白書の作成方針等

生産者、流通業者、消費者までを対象に解りやすくできていると思う。
しかし、消費者に興味を持ってもらえるか？継続議案である
漁業の変貌・変化をエンドユーザーである消費者に、映像を使って、
現状を、知ってもらうこと恒久的である
だから、こういう方法を取っている理解度を上げてほしい